

中学生の友人グループ「間」序列による学校適応感への影響 —個人の集団透過性に着目して—

茂 莉 梓 沙

本研究では、クラス内の友人グループ「間」序列（階層性）・所属する友人グループの地位（グループ間地位）・個人の集団透過性に焦点を当て、階層性と集団透過性が学校適応感や強みへの注目に及ぼす影響と、クラス変数である階層性と個人変数であるグループ間地位が学校適応感や強みへの注目に及ぼす影響について検討した。

公立中学校3校36学級の生徒986名を対象に質問紙調査を行った。主に、以下の4つの結果が得られた。1) 階層性と集団透過性が学校適応感に及ぼす影響について、グループ間地位別に検討したところ、地位が高ければそれだけで学校適応感が良いように感じられるが、階層性の高いクラスにおいては、地位が高くても他のグループと交流しやすいかということが、クラスにおいて目標が存在することや達成による充実感というレベルの適応を左右する可能性が示唆された。2) 階層性と集団透過性が強みへの注目に及ぼす影響について、グループ間地位別に検討したところ、地位が低い場合において、他のグループと交流する傾向が高い人はクラス内のグループ間序列の有無にかかわらず他者の強みに注目するが、他のグループと交流する傾向が低い人は、クラス内のグループ間序列がある場合に他者の強みに注目し、クラス内のグループ間序列がない場合には他者の強みに注目しないことが示された。3) グループ間地位と階層性が学校適応感に及ぼす影響について、グループ間地位が低いことや階層性が高いこと自体が学校適応感を低下させる要因となる上に、階層性の高いクラスにおいて所属するグループ間地位が低いということは、学校適応感をより下げる可能性をもつことが示された。4) グループ間地位と階層性が強みへの注目に及ぼす影響について検討したところ、グループ間地位が高いと自分に強みがあるということに注目することが示された一方で、クラスにグループ間序列の構造があることと、自分や他者の強みに注目することの間に関連がないことが示された。